# 令和5年度　学校自己 及び 学校関係者評価表　　武蔵村山市立第十小学校

| | |
|---|---|
| 経営理念 | 「子供と大人がいつも寄り添い、共に学び、一人一人が育ちを実感できる学校」<br>ア　児童一人一人が自信をもち、学びのエンジンを動かして伸びる喜びをつかむ。　・意欲をもって学ぶ力と学習に責任をもつ感覚を育てる。<br>イ　朗らかな気持ち(心)で、自分も他人も大切にする。(相手の心をよむ)　・自分のよさを知り、友達のよさを実感する。<br>ウ　体力向上の活動にすすんで参加し、健康でたくましい体をつくる。　・体育授業や体力向上の取組の充実により、運動の楽しさを実感する。 |

【学校運営協議会・会長】安部　正

学校運営協議会（学校評価分）第１回１０月１９日（木）
第２回　１月１１日（木）
第３回　２月１５日（木）

様式

| | 経営目標<br>（中期・短期を明記） | 目標達成のための方策 | 評価指標<br>（評価の根拠） | 自己評価<br>10月 2月<br>目標値<br>達成値 | 達成値 | 最終評価<br>達成度 | 評価 | 分析コメント(学校関係者評価委員会の意見、児童・生徒評価、保護者評価等の意見について、参考にする。) | 改善策(来年度の目標設定、具体記な取組目標) | 学校関係者評価<br>意　見 | 評価点<br>(4点満点) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学力向上 | 学びに向かう姿勢を育てる<br>・課題解決的な学習の推進<br>・形成的評価の重視<br>・字を丁寧に書く | 学校の授業と個別対応(一人一台端末の活用等)との連携を図り、基礎・基本の定着を図る。 | 国語・算数の小テスト等で9割以上正答する児童の割合(教員の記録) | 70 | 49 | 52 | 74 | B | 4年生以上は、授業で端末をツールとして活用し、家庭学習にも生かすことができている。3年生より下に広げていくことが、次年度への課題となる。 | 目的を達成するための端末活用を児童自身が理解し、活用場面を自己決定していく。決定に責任をもたせることで、自己管理能力も高めていく。 | 正当する児童の割合が向上していると思われます。小テストの難易度や機器の習熟が必要である。 | 3.7 |
| | | 家庭学習の内容やカード等を工夫し、保護者と連携しながら家庭学習時間(学年×10＋10分)を徹底させる。 | 学年に応じた家庭学習時間が定着している児童の割合(児童評価) | 70 | 28 | 26 | 38 | C | 保護者アンケートからも、家庭学習は引き続きの課題となっている。eライブラリの活用とともに、自主学習による主体的な方法へと転換を図る必要がある。 | 1コマ40分授業で生まれる午後の「個別の時間」を活用し、宿題に相当するものを学校内で内包する。この時間で身に付ける主体性を、家庭まで持続できるように計画していく。 | 家庭の学習時間の定着を児童が自己評価し、向上していると実感できるとよい。 | 3.0 |
| | | 音読を国語の授業に位置付け、すらすらと音読できる児童を育成する。 | すらすらと音読できる児童の割合(児童評価・教員の記録) | 80 | 68 | 72 | 89 | A | これまでの国語の研究成果により、音読を含めた読み取りの授業展開が定着している。 | 「個別の時間」に音読練習も含めることで、個人練習だけでなく友達との協働の中でさらに高められるようにする。 | 音読の繰り返しは重要で、一定の成果が見られると思います。引き続き頑張って下さい。 | 3.9 |
| | | 字を丁寧に書くことを指導し、習慣化できるようにする。 | 字を丁寧に書くことができた児童の割合(児童評価・教員の記録) | 90 | 65 | 71 | 79 | B | 全校朝会等での呼びかけにより、字を丁寧に書く意識が高まっている。 | 「個別の時間」では、多くの教員やボランティアが関わることを計画している。それらの方からたくさん褒めてもらうことで、意欲を高めながら取り組めるようにする。 | 練習の積み重ねで上手になり、学習意欲もわくと思われます。 | 3.2 |
| | | ICT機器(デジタル教科書・一人一台端末の活用等)の活用により、学習意欲や学習効率を高める。 | 学習意欲や学習効率を高められた授業の割合(教員の記録) | 70 | 65 | 76 | 109 | A | ICT活用が多様化し、ドリル学習からプレゼンまで、幅広いスキルが向上した。高学年では、ショッピングモールでの職場体験をまとめ、モール内に掲示することで、目的意識もたせながらスキル向上を図ることができた。 | 授業内での活用は定着しているので、家庭での活用を図るために反転授業の研究を行う。家庭では、導入に当たる動画を見てくることとし、授業ではすぐに本題に入っていけるように工夫する。 | ICT機器の導入と児童の努力で、よく成果が見られます。<br>学習発表会で、その活用している様子を見る機会を作ってもらって保護者も嬉しいと思います。 | 3.8 |
| | | 課題解決的な学習を展開し、形成的評価を行っていく。 | 課題解決的な学習・形成的評価を実践できた授業の割合(教員の記録) | 70 | 65 | 77 | 110 | A | 1時間の授業の中では、その流れが概ねできてきた。しかしながら、単元全体を通しては、課題解決的な流れに至っていない。 | 単元内自由進度学習を研究し、単元を通した課題解決を児童が計画・遂行できるようにする。また、ポートフォリオ評価を導入し、各自の進捗や評価を確実に見取れるようにする。 | 課題解決型学習と形成的評価に取り組まれ、成果が見られます。 | 3.7 |
| 体力向上 | 自己肯定感を高める<br>・道徳授業の充実<br>・豊かな人間性を育む<br>・椅子を入れる指導<br>・体力づくりの推進<br>・特別活動の充実 | 体育授業の改善を図り、体力づくりを継続的に実施する。 | 「体育の時間が好きである」児童の割合(児童評価) | 80 | 81 | 85 | 107 | A | 体育の授業に対して好意的であるとともに、体力を向上しようと積極的に動こうとする児童が増えた。また、持久走にも粘り強く取り組み、成果が出てきた。 | 40分授業の導入に伴い、より効率的な学習プランについて検討を進める。運動量を確保するため、集合・整列の時間短縮など、集団行動も高める必要がある。 | 授業の区夫や限られた時間内での運動会は収穫がありました。 | 3.8 |
| | | 日常的に体を動かすことが好きな児童を増やす。 | 「中休みなどの外遊びが好きである」児童の割合(児童評価) | 70 | 45 | 46 | 66 | B | 夏の猛暑もあり、昨年度に比べ中で過ごさざるを得ない状況が多かった。その影響もあり、外に出る児童は少なくなった。 | 校庭だけでなく、校舎内にも体を動かせるスペース(プレイルーム)を設置する。場所にこだわるのではなく、体を動かす機会を増やすことにこだわっていく。 | 校舎の整備、コロナやインフルエンザ等も重なり制約があり、次年度以降に期待します。<br>大谷選手のグローブをきっかけに、スポーツが盛り上がるといいですね。 | 3.5 |
| 豊かな心の育成 | | 「いすを入れる」ことを通して、心の育成の基礎を養う。 | 「いすを入れる」ことができた児童の割合(児童評価) | 90 | 88 | 90 | 100 | A | 「いすを入れる」という行為を通して、相手を思いやる心を育むことができた。 | 来年度も引き続き取り組み、目標値100の達成を目指す。 | 定着し、習慣化できて素晴らしいと思います。 | 3.9 |
| | | 「特別の教科 道徳」において、自他の意見を尊重しながら考えを深めさせる。 | 道徳科で自分の考えを伝えたり、友達の意見を聞いたりできた児童の割合(児童評価) | 80 | 84 | 83 | 104 | A | 全校道徳や日常的な道徳、さらには特別活動の研究を通して、意見を言いやすい環境を整えることができた。 | 縦割り班での全校道徳を、全員が集会した中での実施を目指す。 | どの学年でも達成されていたと思われます。特に班でのまとめは効果あり。 | 3.6 |
| | | 縦割り班清掃において、異年齢集団と協力しながらやりぬく力を付けさせる。 | 縦割り班清掃で協力できた児童の割合(児童評価) | 80 | 86 | 84 | 105 | A | 縦割り班の清掃や遊び、避難訓練などの活動はすっかり定着し、自然と兄弟・姉妹の関係が生まれてきた。 | 特別活動の研究で培った話し合う力を、縦割り班に生かせるようにする。また、高学年に外部講師によるプレイリーダー研修を設定し、縦割り遊びの多様化と質の向上を図っていく。 | 当校では熱心に取り組まれており、更に深めて欲しいと思います。 | 3.7 |
| 信頼される学校 | 学校運営の基礎づくり<br>・教員自身の自己研鑽<br>・いじめ・不登校対応 | 教員相互が授業を参観し、事後協議を経て授業力を高める。 | 授業交流を年2回以上実施し、授業力がアップしたと実感できる教員の割合(教員の記録) | 80 | 78% | 95% | 119 | A | OJTのグループを作ることで、日常的に授業を見合い、それに対して話し合う機会が生まれた。 | 全教員による授業公開は引き続き継続し、教員も輪になって話し合う文化をさらに醸成していく。 | 市内に加え、区内への視察など機会を作っていただければと考えます。 | 3.5 |
| | | いじめを未然に防止し、発生した際には速やかに解消する指導を徹底する。 | 年3回のいじめアンケートで、いじめを受けていない児童(解消済み含む)の割合(いじめアンケート) | 100 | | 100 | 100 | A | 生活指導夕会などで毎月確認し、3か月までの後追いも着実に行ってきたことにより、いじめ防止・解消の徹底が図られた。 | 全校道徳などと連携していく中で、いじめの未然防止を念頭に置いていく。また、3か月間の後追いも、複数の教員で行っていき、確実な解消を図っていく。 | 地道に取り組んでも種々の状況が起こると思われます。引き続きアンケートの活用をお願いします。<br>「悪いことは悪いんだ」と常に伝えること。今後も強い口調や容姿など、小さいこと曖昧にせず、向き合って。「学校はやっぱり正しいところ」と子どもたちが思える場所にして、毎日元気に通ってもらいたい。 | 3.8 |
| | | 児童が活躍できる機会を生み出し、「学校が楽しい」と思えるようにすることで、不登校を未然に防止する。 | 「学校が楽しい」と思う児童の割合(児童評価) | 80 | 77 | 75 | 94 | A | 授業や休み時間に児童が楽しみにしている時間があることで、多くの児童が楽しく登校できている。不登校は数名いるが、各自が目標をもって取り組んでいる。 | 学校全体を「学びのテーマパーク」と位置付け、授業の楽しさに加え、児童の好きな場所が増えるように環境整備(プレイルーム等の設置)を進めていく。また、不登校児童に対しては、学びの選択ができる「個別の時間」だけでも来られるように声をかけ、無理のない登校支援を進める。 | 夏まつりや展覧会等において、児童の活躍が増していると思われました。<br>ゲーム・クイズなどの遊び的な要素や調べ学習など、お互いに競い合い個性を発揮できるような授業を行うことで児童の集中力、習熟度が向上することが期待できる。 | 3.3 |
| | 開かれた学校<br>・保護者・地域と、協働し共有する学校の推進 | 保護者会の内容や手法(オンライン含む)を充実させ、参加率6割を目指す。 | 保護者会の参加率(学校の記録) | 60 | 49% | 47% | 78 | B | 50%には届いていないが、写真や映像の活用、保護者相互の交流の2つの視点で、保護者会の改善に努めてきた。 | 特別活動の研究で行ってきた、アイスブレイクやレクリエーション等の活動を、児童・保護者と一緒に実施する。そうすることで、参加率増加を見込むとともに、保護者にも「学校が楽しい」ということを実感してもらう。 | 社会環境の変化もあると思いますが、やや低重です。<br>保護者の参加を求めます。<br>保護者の方も学校の中がもっと見える理解をしてもらえると思います。 | 3.3 |
| | | 学校・学年・学級だよりやホームページのオンライン化を進め、計画的に情報発信する。 | HPの更新率、学校・学年・学級からの情報発信を月2回程度の割合で実施(学校・教員の記録) | 80 | 68% | 95% | 119 | A | 配信アプリの活用により、学級単位から学校全体まで、バランスよく情報発信できた。また、ほとんどの手紙等を配信としたので、ペーパーレス化も急激に進んだ。 | アプリによる保護者への情報発信は定着したが、数の多さや誤配信も目立つようになってきた。内容の精選・分かりやすさを追求するとともに、チェック体制の再構築を図る。 | 学校からの発信と保護者の参加を促す相互コミュニケーションが深まればいいと思います。<br>十小だより等を地域コミュニティを通して回覧し、情報発信ができている。 | 3.6 |
| | | PTA活動・地域行事等に積極的に協力し、家庭を理解し、地域に溶け込む努力をする。 | 地域の行事等に教員の誰かが参加する割合(学校の記録) | 100 | | | | | | | | |
| | | 学校運営協議会等と連携し、ボランティア参加者を募る。 | 行事に対するボランティア参加の割合(学校の記録) | 100 | | | | | | | | |

【達成度】＝［達成値］／［目標値］
【評価】　A：8割以上→目標達成とみなし新たな目標設定　　B：８割未満5割以上→8割を超えるまで継続実施　　C：5割未満→目標の見直し

平均値　3.6